

2023年2月5日(日)

日本キリスト教団 ^{きゅうほうぎょうかい}久宝教会

第65巻第42号(通算3324号)

教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう

週報

教会標語

かみさま ^{ひと}神様がすべての人と共に ^{とも}おられる
ことを ^{あかし}証しして ^{きょうかい}いく教会



ホームページ「久宝教会」
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>

【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

主任担任教師・牛田 匡 牧師

担任教師・水谷 憲 牧師

隠退教師・小林 達夫 牧師

神はこの世を大切に思い、ひとり子を差し出した。ひとり子に信頼をもってあゆみを起こす人がみな、滅びることなく、永遠のいのちを得るようになるためである。(ヨハネによる福音書3:16)

こうたんせつだい しゅじつれいはい 降誕節第7主日礼拝

れいはい
《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでも
ご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をしていただけます》

ぜん そう もくとう ^{ちよさくけんしやうめつ}
前奏(黙禱) AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

まね ^{ことば} 招きの詞 ^{しへん} 詩編 147編 1-11節

さんびか ^{ばん} 賛美歌 21-211番「あさかぜしずかにふきて」(©JASRAC)

せいしよ ^{ふくいんしよ} 聖書 ルカによる福音書 8章 4-8節

いの
お祈り

さんびか ^{ばん} 賛美歌 21-57番「ガリラヤの風かおる丘で」(©JASRAC)

メッセージ 「聞く耳を持つ」 ^{みずたに けん ぼくし} 水谷 憲 牧師

さんびか ^{ばん} 賛美歌 21-53番「神のみ言葉は」(©著作権消滅)

ユーカーリスト ^{みずたに けん ぼくし} 聖餐 水谷 憲 牧師

きやうどう ^{いの} 共同の祈りと『讚美歌21』524番「われらみ名により」(©著作権消滅)

しゅ ^{いの} 主の祈り

ささげもの
献げ物(*)

は ^{ばん} 派遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ) (©JASRAC)

しゅく ^{ふく} 祝福 ^{みずたに けん ぼくし} 水谷 憲 牧師

こう ^{そう} 後奏 アーメン コーラス (21-40-6番) (©著作権消滅)

ほう ^{こく} 報告 (4頁をご参照ください)

《お隣と間隔をあけて、席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

* 「献げ物(献金)」は参加費ではございません。

うけつけ ^{けんきんばこ} 受付に献金箱がございます。ご用意のある方のみ、お献げください。

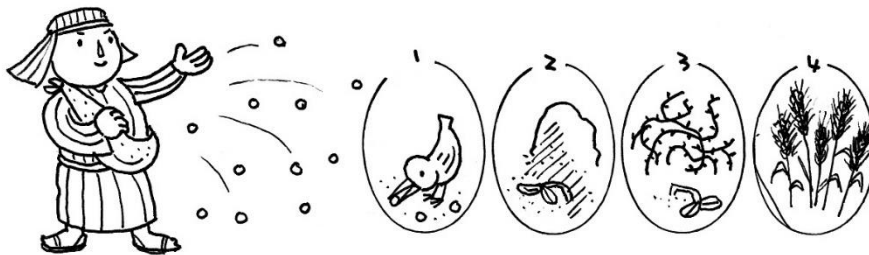
招きの詞 詩編 147 編 1-11節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

- 1 ハレルヤ。／我らの神をほめ歌うのはなんとすばらしいことか。
賛美は麗しく、快い。
- 2 主はエルサレムを築き／イスラエルの散らされた人々を集める。
- 3 心の碎かれた人々を癒やし／その傷を包む。
- 4 星には数を定め／それぞれに名を付ける。
- 5 我らの主は大なる方。／力に富み、その英知には限りがない。
- 6 主は苦しむ人々を支え／悪しき者らを地に倒す。
- 7 主に感謝して歌え。／琴に合わせて、我らの神をほめ歌え。
- 8 主は天を雲で覆い／地に雨を備え／山々に草を芽生えさせる。
- 9 獣にも、叫び求める鳥の雛にも／食べ物を与える。
- 10 馬の勇ましさを喜ばず／人の^{けんきゃく}健脚も望まない。
- 11 主はご自分を畏れる人々を／その慈しみを待つ人々を望む。

(脚注 a：直訳「両脚」)

聖書 ルカによる福音書 8章 4-8節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

4 大勢の群衆が集まり、方々の町から人々が御もとに來たので、イエスはたとえを用いて語られた。5 「種を蒔く人が種蒔きに出て行った。蒔いている間に、ある種は道端に落ち、人に踏みつけられ、空の鳥が食べてしまった。6 ほかの種は岩の上に落ち、芽は出たが、水気がないので枯れてしまった。7 ほかの種は茨の中に落ち、茨も一緒に伸びて、それを塞いでしまった。8 また、ほかの種は良い土地に落ち、芽が出て、百倍の実を結んだ。」イエスはこのように話して、「聞く耳のある者は聞きなさい」と大声で言われた。



《先週のメッセージより》 2023年1月29日 河内地区有志教会講壇交換礼拝

「生きる時も死ぬ時も」より

浅見覚牧師（枚岡教会）

聖書 ローマの信徒への手紙 14章7-9節

久宝教会の教会員お一人お一人について、聖書から知らされていることがある。「生きるにしても、死ぬにしても、わたしたちは主のものです。」みなさんは、キリストのものとしてされている。

問いと答の形式で信仰を学ぶ小冊子『ハイデルベルク信仰問答』は、第一問で「生きるにも死ぬにも、あなたのただ一つの慰めは何ですか」と問いかける。人は、生きる時だけでなく死ぬ時もある。だから、生きている時だけでなく、死ぬ時にも慰めとなり、支えとなるものが必要である。この問いへの答えは「わたしがわたし自身のものでなく、体も魂も、生きるにも死ぬにも、わたしの真実な救い主イエス・キリストのものであることです」である。教会はこの冊子を用いて、信仰者はどんな時もキリストのものあることが、唯一の最大の慰めであると教えてきた。信仰者はこれを信じるゆえ、生きる時も死ぬ時も慰められ、勇気づけられ、平安を手にする。「生きるにも死ぬにも、あなたはキリストのものだ。キリストが、ご自分のものとして、あなたをしっかりと抱えてくださる。あなたは、そのことに慰めを得て、力を受けて、希望を持って生きられる。たとえ、死を身近に感じていても心配しなくて良い。死を待つその時もキリストのものだ。キリストは、あなたを放さない。死に引き渡さない。」聖書はそう語りかけてくる。

間違えてはいけないのは、キリストが私を自分のものとしてくださっている、ということである。だからこそ慰めとなる。私がキリストを知り、信じ、キリストに従うことは、喜びであり、充実した信仰生活となる。しかし、そういう時ばかりではない。私たちには、信仰の不調もある。信仰の灯が消えそうな時もある。病床で苦しくて祈ることができない時もある。歳を重ねるとキリストを忘れることもあり得る。死を迎えた時には、自分では何もできない。自分のキリストに対する態度は頼りにならない。けれども、キリストが私を自分のものにしてくださった。キリストが私を離さない。だからこそ確かな慰めとなる。私がどんなに弱り、何もできなくなり、キリストに向くことさえできなくなっても、キリストのものとしてされていることは変わらない。私たちが死ぬ時も、キリストがしっかりと抱き続ける。復活したキリストが死を蹴散らし、私を抱えて神の国へ連れて行ってくれるのである。それを知る信仰者は幸いである。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

YouTube



Facebook



LINE 公式アカウント



